

## 歴史文化資源一覧 解説（地図番号に対応）

| 番号 | 場 所               | 解 説   |
|----|-------------------|---|
| 1  | 綿神社               | 古くから鎮座する神社で、古代に福岡の志賀島から各地へ移住した安曇族ゆかりの神社。平手政秀奉納の弓があったが戦災で焼失。信長に主君の赦免を願い切腹した平手家臣をまつる四十八祖社もある。 |
| 2  | 志賀公園<br>(平手政秀宅跡他) | 志賀公園は昭和初期の耕地整理事業により造られた、城北地域を代表する公園。うつけ者と呼ばれた信長をいさめて死んだ平手政秀の屋敷跡に石碑がある。                      |
| 3  | 光音寺               | 室町時代の無縫塔と、女義太夫で明治から大正にかけて一世を風びした豊竹呂昇の墓がある。  |
| 4  | 六所社(金城町)          | 旧光音寺村の氏神でうっそうと茂る境内に、石造りの見事なレリーフが施された蕃塀がある。古い狛犬があったが戦災により失われた。                               |
| 5  | 北清水親水広場           | かつての船溜の跡。明治から大正にかけて、愛船(株)により犬山と名古屋を結ぶ舟運が盛んに行われていた。  |
| 6  | 解脱寺               | 尾張藩家老 成瀬氏ゆかりの寺。境内には、芭蕉や雨橋などの句碑が建てられている。   |
| 7  | 八王子神社             | 現在の名古屋城の場所にあったが、築城の時にここへ遷座。子どもの守り神としてあがめられていた。  |
| 8  | 久国寺               | 家康の守護仏を本尊として建立。岡本太郎作の特異なぼん鐘、名古屋俳壇の雄 白梵庵馬州の供養塔がある。   |
| 9  | 御成道・兵隊道           | 二代藩主光友が大曾根御殿との行き来に造らせた道。明治以降は名古屋鎮台(後：第三師団)兵が小幡の演習場へ通うのに利用した。                                |
| 10 | 尼ヶ坂・坊ヶ坂<br>(片山神社) | 神社の杉の木の上枝・下枝から上飯田・下飯田の地名が生まれたと言われる。神社への道である坊ヶ坂・尼ヶ坂は、男・女の子どものような化け物が出たことからついたという。            |
| 11 | 児子宮<br>(兒子八幡宮)    | 子育ての神として信仰を集めている。大正頃は、疫癘除けのまじないである赤丸神事の時には1日で2万人が参拝したという。                                   |
| 12 | 安栄寺               | 戦国時代の大永7年(1527)に建立された六地藏や、石を愛し集めた百姓源吉の「金牛岡」の碑がある。   |
| 13 | お福稲荷<br>(山神社)     | 小高い丘に山神社・お福稲荷・白龍神社が鎮座し、かつて参拝者で賑わった。水の無い山上なので、手水鉢の代わりに清め石が置いてある。                             |
| 14 | 庄内用水              | 元亀・天正年間(1570~92)に開削され、かつては庄内川以南の広い農地を灌漑していた。北区内の水路は黒川開削とともに造られたものである。                       |

| 番号 | 場 所                            | 解 説  |
|----|--------------------------------|--|
| 15 | 別小江神社                          | 古くからある式内社。「応神天皇御胞衣奉安地」「萩野村道路元標」の石碑、御嶽神社があり、地租改正反対運動などで活躍した稲垣安忠の碑も建てられている。                              |
| 16 | 修善寺                            | 山門の両側では干支のレリーフが出迎え、庭には愛らしいお地蔵さまや仏頭がほほえみ、ほっとできて親しみやすい雰囲気だだよお寺である。                                       |
| 17 | 羊神社                            | 珍しい名の古社である。高崎市に日本三古碑の一つ「多胡碑」があり、その地方の領主 羊太夫が都へ上る途中に立ち寄って火の神を祀り、「火辻神社」が転じて「羊神社」になったなど、色々な説がある。          |
| 18 | 西来寺                            | 江戸時代半ばに強力和尚さんがおり、城の庭に捨てられていた重い門扉 2 枚を軽々と担いで持ってきて寺の門にしたという。   |
| 19 | 多奈波太神社                         | 七夕祭には絵行灯が立ち並び屋台も出て非常に賑わった。庄内川を天の川に見立てて、北にある星神社とここを舞台とする創作民話も生まれている。                                    |
| 20 | 旧三井(原)<br>名古屋製糸所跡<br>(八王子中学校西) | 水の豊かな北区には明治 29 年操業の旧三井名古屋製糸所など繊維工場が多く、たくさんの方が働く町だった。昭和半ばから工場の移転が始まり、跡地は団地などの住宅になり街の姿も大きく変わった。          |
| 21 | 柳原通商店街                         | 昭和 37 年 4 月に設立された柳原通商店街振興組合は、愛知県下では最初、全国でも二番目の商店街組合。今も夏まつりなど活発な活動をしている。                                |
| 22 | 豪潮長栄寺                          | 豪潮は藩主斉朝の病氣治療のため文化 14 年(1817)に熊本から招聘され、加持でたちまち治した名僧。藩の命により、長栄寺の再興と、祈禱所の創建を行った。                          |
| 23 | 名城公園                           | 名城公園から城北住宅の一带は、御深井の庭と呼ばれる藩主専用の庭で、明治 22 年に練兵場になった。戦後に公園や住宅へ姿を変え、お城を間近に望みつつ散策やジョギングなどを楽しむ人で賑わっている。       |
| 24 | 御用水跡街園<br>染色工業地帯               | 御用水は江戸時代に名古屋城の堀へ水を送るため開削され、巾下水道の水源にも使われた。明治になりきれいな水を利用して沿川には染色産業が発達したが、水質の悪化により昭和 40 年代に埋められて街園に姿を変えた。 |
| 25 | 六所社(下飯田町)                      | 入口の掲示板台座や境内西に大幸川などに架かっていた橋の親柱が残る。耕地整理の記念碑、征露戦捷祈願の手水鉢、本殿右手の塔の基部には支那事変一周年記念との銘板がある。                      |
| 26 | 城東町・長田町                        | 大正 2 年から城東耕地整理が始まった。都市化に向け区画が整理されたが、時代を反映して自動車が入れないような狭い道も造られ、戦災で焼け残った地域は今もその面影が残っている。                 |

| 番号 | 場 所            | 解 説  |
|----|----------------|--|
| 27 | 鈴蘭南座           | 名古屋ではここだけ、全国でも 42 か所しかない大衆演劇専門の劇場。役者と客が一体になって創りだし楽しむ大衆芸能が今も息づいている。   |
| 28 | 下街道            | 正式の街道ではないが、庶民がよく利用したのが下街道。大井宿の南で中山道に続く道である。大曾根駅西に道標が残されている。  |
| 29 | 山田天満宮          | 名古屋三天神の一つとして受験シーズンをはじめ多くの参拝者が訪れる。境内の金神社は、お金を洗い祈願する風習がある。   |
| 30 | 常光院            | 名古屋二十一大師霊場の一つ。境内には多くの観音像や石碑とともに、寛文 13 年（1673）と刻まれた大きな鬼瓦も寄進されている。   |
| 31 | 黒川             | 明治 9～10 年(1876～1877)に犬山と名古屋をむすぶ舟運と農業用水の取水を目的に、守山区水分橋で庄内川から分岐し、矢田川の下を伏越し堀川にそそぐ川（この川は担当した技師、黒川治愿の名前から「黒川」と呼ばれています。）がつくられた。 |
| 32 | 霊光院            | 上飯田駅から夫婦橋にかけ空襲で 250 名余の犠牲者が出た。境内には「飯田戦災者霊位」「飯田殉国者霊位」と刻まれた供養塔がある。また、霊光院東の擁壁の上がかつて矢田川の流れていた所である。                           |
| 33 | 六所宮<br>(上飯田南町) | 鳥居の左手にある「赤心富士」碑の由来には「飯田から出征した若者の武運長久を祈り、少年・少女は毎日一つずつの石を六所宮に奉納した」と記されている。   |
| 34 | 八龍社            | 小高い丘にあるのは、かつての矢田川堤防沿いに建っていたからだ。祭神は京都の貴船神社と同じ高龍神(たかおかみのかみ)で、水の神である。水害に苦しんだ地域の歴史を感じさせる神社である。                               |
| 35 | 聖徳寺            | 源氏と平家の墨俣川の戦い(1132)で活躍した安食重頼が建立したと伝えられ、昭和 8 年に建てられた見事な客殿に秘仏の聖徳太子像が安置されている。  |
| 36 | 成願寺            | 行基が開基し、山田庄の荘司 山田重忠が再建したといわれる。本尊は、行基が彫ったと伝えられる高さ 1.6 m の十一面観音である。   |
| 37 | 六所神社（安井）       | 昭和初期の矢田川付け替え工事ここに遷座した。宝暦 12 年（1762）の灯籠のほか、明治・大正・昭和の灯籠がある。  |
| 38 | 首切地蔵           | 土地の郷土 一之曾五左衛門の家で働く娘がいた。ある日娘の失態を怒った郷土が寝ている間に切りつけた。翌日娘がお地蔵さんのお参りに行くと、地蔵が身代わりで切られていたという。文政の銘が刻まれている。                        |

| 番号 | 場 所            | 解 説   |
|----|----------------|---|
| 39 | 味鋤神社           | 式内社である。昭和 13 年までは祭礼の時に流鏝馬が行われていた。境内には新しい流鏝馬の像、清正橋、縁結びの椿などがある。   |
| 40 | 護国院            | 行基が自作の薬師如来を本尊として建立したと伝えられ、戦国時代には荒廃したが天沢和尚の尽力などにより復興した。立派な山門は四天王が守り、左手には道標を兼ねた観音像が庄内川の堤防から移設されてきている。                 |
| 41 | 西八龍社           | 雷除けの神社として崇敬され、かつては祭礼に 5,000～6,000 人が訪れ、30,000 枚のお札が授けられたという。  |
| 42 | 大井神社           | 式内社である。相殿神の塩釜六所大明神は、南北朝時代に活躍した石黒重行が奥州から帯同してきたものという。境内には昔盛んであった獅子芝居の碑が建っている。   |
| 43 | 楠西堤            | 寛延 2 年から宝暦 13 年(1749 から 63)15 年に近い年月を要して完成。平成 12 年 9 月におこった東海豪雨のため、堤防は補強工事が行われた。現在は、遊歩道として整備されている。                  |
| 44 | 岳桂院            | 水害から逃れるため、享保 3 年 (1718) にここへ移転した。境内に庚申塚、明治 7 年に女人講が建てた明王堂がある。   |
| 45 | 大我麻神社          | 文政年間 (1818～29) に入植者の佐々木磯吉が建立。奥には開発者や入植者の名前を刻んだ碑が建つ。また、仁沢碑は農地解放前に小作人に土地を譲った三輪惣右衛門をたたえた碑である。                          |
| 46 | 神明社 (喜惣治)      | 入植とともに建立された。知立神社が合祀されているのは、まむし除けの神様だから。社の両側に、鍔絵で鶴亀の絵と神明の文字がレリーフされている。   |
| 47 | 洗堰             | 天明 7 年(1787)に新川が開削され、庄内川の堤防を一部切り下げた洗堰が造られた。これにより庄内川の洪水が軽減されたが、たびたび洗堰は破損した。明治 16 年に黒川を開削した黒川治憲が頑丈な堰に改築し、その記念碑が建っている。 |
| 48 | 金虎酒造           | 弘化 2 年 (1845) に城下町にほど近い下街道沿いのこの場所で創業。きれいな地下水が湧く北区内には、いくつもの造り酒屋があったが、今ではここだけになっている。                                  |
| 49 | 大曽根地区商店街       | 大曽根は名古屋北東の玄関口として江戸時代から繁栄していた。この地域の商店街は大曽根商店街 (西地区) が OZ モールへ、大曽根本通商店街 (東地区) がオゾンアベニューへと生まれ変わり、オズガーデン (地下街) も誕生した。   |
| 50 | 山田次郎重忠<br>旧里の碑 | 山田の荘を治め、承久の乱で勤皇の雄として武勇を轟かした山田次郎重忠の館がこのあたりにあったといわれる。   |